

令和5年6月 市長定例記者会見

令和5年6月1日(木)

午後1時30分 開始

【秘書広報課主幹】 ただいまから市長記者会見を始めさせていただきます。

初めに、市長よりご挨拶申し上げます。

【市長】 こんにちは。定例記者会見ということで最初にご挨拶させていただきます。

4月30日に市長に就任し、5月1日が初登庁でした。今日1か月ということになります。この間、ずっと各部署の政策的なレクチャーを受けてきました。それから6月議会では補正予算ございますので、補正予算に向けた予算編成に取り組んでいるところです。選挙終わった後、初の臨時議会がありましたけれども、そこでは副市長等の人事案件について議案の議決をいただきました。副市長に堤副市長を迎えることができました。また、本日付で人事異動を行っておりまして、今後新たな体制で引き続き進めていきたいと思っています。

外回りのことではいいますと全原協の総会がありました。そこで引き続き会長を務めることになったということがございます。また、この総会前には、福島県の被災地を訪問しまして、4つの町の町長皆さんと懇談することもしてきましたし、また実際現地のほうで復興の状況を自分の目で町長さんに案内していただいて見せていただきました。

このほかではいいますと、北信越の市長会もありましたし、あと「創生福井」首長の会、それから嶺南広域行政組合、立地協、そういうところを通じて県内外の首長の皆さんと連携、協力する関係というのを今からつくっていったらなと思っています。

実際、私、新米としてそこに入らせていただいたわけですがけれども、すごく皆さんに歓迎をしていただいたなということを自分では思っています。

それから、県外出張がこの1か月本当に多かった。先ほど言いました全原協関係、それ以外にも北陸新幹線の大会がありましたし、あと関係省庁の訪問というのも一通り行かせていただきました。あと、福島県いわき市では港湾の会議もありましたし、姉妹都市の水戸市も訪問させていただきました。こういうことも含めて今後も積極的に活動していきたいと思います。もちろん市内についても、これから市民といろいろコミュニケーションをとるという意味で、もちろん市の施設というのも一つ一つ見ていかなきゃいけませんし、市民の方といろんなコミュニケーションをするということも含めて、市内のほうも活発に

行けたらなと思っています。冒頭の挨拶としては以上です。

【秘書広報課主幹】 では本日、市長からの事業発表はございません。

フリーの質疑応答に移りたいと思います。

では初めに、幹事社様からお願いいたします。

【記者】 市長就任から1か月のことを伺ったんですが、もう一度振り返ってみて、例えばちょっと思ったことと違うなど感想あればということと、あと最後のほうにおっしゃった市民とコミュニケーションの場、以前設けるようなこともおっしゃっていた。具体的にいつぐらいから始めるのかお伺いします。

【市長】 1か月の感想ということで言いますと、本当にいろんな場に出ささせていただきましたし、いろんな人とお会いすることもありましたが、本当に歓迎していただいているなというのは実感として思っています。そういう意味ではいろんな方と連携して物事を進めていけるのかなという期待が自分の中でも大きくなっていったなというのがあります。

一方で、市役所にいないことも多くて、これからこういうことを進めていくんだよという具体的なアクションを決める打合せというのを本当はもっとやっていきたいなと思っておりますが、最初は挨拶回りなど本当に大事だし、このタイミングでしかできないことですので、そこはしっかりやっていくということです。また、いろんな物事を決めていくということもこれからしっかりやっていきたいなということを思わせる1か月でした。

それから、さっきの市民とのコミュニケーションで申し上げましたが、例えばざぶとん会的なもの、名前はともかくですけども、それは今年度でも後半のほうになってくるんだと思います。そのほうが今のやりたいこととか、そういうこともある程度固まり、進め方が分かってくるというところで、本当の意味のコミュニケーションができるのかなと思っているので、そういう形のものというのは今年度でも後半のほうかなと思っています。

一方で、例えばどこかの施設に行くとか、それから例えば産業界の方と色々な話をするとか、そういうことについてはタイミングを見てどんどんやっていけたらなと思っています。

今どっちかという、挨拶的な要素が強いので、そうじゃなくて現場に行ってまたお話を聞くとか、そういう時間を持てたらなと思っています。

【記者】 この1か月の出来事の一つとして、新幹線関係で「つるが、発見！」のロゴマークが、後ろにもありますけれども決まりました。こちらのロゴマーク、これから活用に向けていろんな場面で使われると思いますが、そこに関しての市長の期待などありました

ら教えてください。

【市長】 これから敦賀のことをいろいろプロモーションしていくと、敦賀のことを外の人に分かっていくということと、実際敦賀市民ともそういうところで意思統一してやっていくという意味では、シンボルになるものができたのがすごくよかったなと思っています。「つるが、発見！」という言葉はありましたが、こういうロゴマークがつくことによって、いろんなところで使っていただけるとありがたいです。例えば名刺だったり、何かの封筒だったりとか、敦賀に新幹線が来て、いろんな敦賀のことを知ってほしいんだというこちらの思い。それから外の人にしたら、これ何だろうというところで、じゃ、「つるが、発見！」って何があるのかなと思ってもらうとか、シンボリックにすごくいいのかなというふうに思っています。

【秘書広報課主幹】 では次に、各社からお願いいたします。

【記者】 この1か月の中で毎週のようにイベントがあったと思いますが、例えば駅前のTsuruga DEPARTとお砂持ち、次は親子フェスと音楽フェスといったような感じで、ますますにぎやかな状況だったと思います。市長も参加されたと思うんですが、参加されてのご感想と、今後この駅西、気比神宮、金ヶ崎というのは、これまでずっと敦賀市が新幹線開業に向けて、その辺を核に盛り上げていこうということがあったと思うので、今後に向けて今回の取り組みをどのように生かせたらという感想を持たれたか教えてください。

【市長】 私が市長に就任する前も3月にはイベントがあつて2日間で11,000人来ました。それから、4月も今おっしゃったとおりですし、5月に入ってから14日の駅前とお砂持ちもありました。この前は金ヶ崎でイベントをやりました。おっしゃるとおり全部行ったんですけれども、すごく人が多かったです。

コロナが少し落ち着いた状況の中で、本当に皆さん、イベントを楽しめる環境になってよかった。本当に皆さん、楽しそうな顔をしていましたので、それは本当に私自身も楽しかったですし、そういう環境になってよかったなということと、その各イベントで新幹線のことを取り上げられていて、そういう意味では、本当にイベントを通じてその機運を少しずつ少しずつ3月の開業に向けて盛り上げていけたらな、盛り上げていけるはずだったイベントでした。

私自身もイベントを楽しませていただきましたし、これからも何日前、何日前ということでイベントを打つことになると思います。そういうところでみんなに楽しい思いをして

もらいながら、新幹線の開業に向けての機運を盛り上げていきたいなと思っています。

【記者】もう1点聞きます。その中で金ケ崎の赤レンガ倉庫のジオラマ館50万人達成というのも市長になられた直後にあったと思います。金ケ崎エリアの活性化に向けて、この赤レンガ倉庫50万人達成した中で、今後の赤レンガ倉庫とか金ケ崎への期待感、例えばブラッシュアップとかそういったものがあつたらいいというものを感じておられるか教えてください。

【市長】金ケ崎については、それこそ私が市長になる前からずっとここを活性化していきたい、観光の拠点になつたらいいねという話がありました。それはこれまでも検討されていて、新幹線の開業に合わせてというよりも、新幹線の開業後も含めていいものをつくっていくというスタンスで、それからそういうスケジュール感でこれまでもやってきたと思います。

それを引き続きずっと検討をやっていて、どこかのタイミングでこういう形でやっていきたいという話になってくると思います。本当に一つの大事な拠点でもありますし、先ほど言われたように駅西から氣比神宮、それから金ケ崎というつながりをつくらなきゃいけないという意味もあり、終点みたいな形になりますので、そこをどうしていくかというのは本当に慎重に考えていきたいと思っています。

【記者】終点の金ケ崎において、今回50万人達成した赤レンガ倉庫については今後どのように活用するかお願いします。

【市長】コロナでなかなか大変だったと思います。その中でジオラマ館については、掛ける何とかみたいな感じで、例えばシルバニアなど。何かいろいろ掛ける何とかみたいな形でイベントを打って、それで積み重ねたものが今回50万人になりました。これからもずっと同じようにやっていくと思います。コロナもこうやって落ち着いた状況の中で、お聞きしますとレストランなど大分上向いているような形を聞きますので、ジオラマやレストランがしっかり全体として観光客が増える中であそこのお客さんも増えるという形がいいのかなと思っています。

やっぱり雰囲気がいいところなので、イベントは当然いろいろ絡んでくるんだろうなと思っています。市議会でもこれまでもありましたけれども、赤レンガと周辺施設、例えばムゼウムだったり、そういうところとの連携をしていきたいと思います。これはこれまでも言われています。先ほど金ケ崎エリアという話がありましたけれども、その中でそういう連携をしっかりやっていくといいだろうと思っています。

例えば、もう時期的には来年の話になっちゃいますが、金崎宮の花換まつりの時期というのは、あそこら辺の赤レンガもそれなりに人が出ていましたし、この前のイベントのときもそうでした。ほかの施設や、行事、イベントと絡めていろんなことをやっていけると思っています。

あえてもう一つ言うなら、そういうイベントはなるべくお客さん来てもらうにこしたことはないので、情報発信については市役所でもお手伝いできたらと思っているところです。市長の名前でやるようなSNSなどでイベント紹介などを積極的にやっていこうということで取り組みを始めているところです。

【記者】 原子力のことに関してちょっと伺います。昨日もコメントをいただいたところではあるのですが、昨日、参議院の本会議で、実質的に60年を超える運転が可能になる法律が成立しましたがけれども、改めて市長として、そして全原協の会長として受け止めをお伺いしたいと思います。

【市長】 コメントも出したところではありますが、あの法律が可決された。その前段階として基本方針があってというこの一連の流れの中で、原子力の利用についての意義づけや、使われている言葉そのまま使うと価値だったり、そういうことを明確にしてもらったというのは非常に良かった。国の責務というところも明確になってきたというのもそれはいいことだなと思っています。

原子力については安全にやっていくということが大前提になるという中で、今回の法律である程度そこら辺が固まってきたというのはいいいことだなと思っています。

一方で、GXとなったときにこれからどうしていくというスケジュール感だったり、規制についても、特に運用面で明確にしていかなきゃいけないところがあるんだろうなと思っていて、そういうところは今後注視していきたいと思っています。

【記者】 おっしゃっていたスケジュール感とか、その規制の面というのは、例えばそれこそ新型炉の開発であったり、そういったことを念頭におっしゃられているのですか。

【市長】 そうですね。新型炉というか、言葉の定義いろいろありますが、当面でいえば次世代革新炉もしくは次世代軽水炉と言われるものについてどういうスケジュールになってくるのか。これがやっぱり将来的なGX（グリーントランスフォーメーション）ということに関わってくるのだと思いますので、まだそこまではっきりはしてない。こっちの道に進みますというのは分かったと思います。そこは明確になった。それでは、どういうスケジュール感でやっていくのかということについてはこれからの話かなと思っています。

す。

【記者】 方向性は決まったけれども、これから具体的な中身はどうなる、そういったことということですね。

【市長】 そうですね。それについては規制ももちろんそうですし、具体的、将来的な話でいうと、さっきの次世代軽水炉・革新炉についてはスケジュール感だったりとか、中身だったりという話ですし、今回の最大60年超などそういう話は運用がどうなるのかという話もこれからあるのかなと思っています。

【記者】 今日午前中にも市のほうにも報告があったのかなと思うんですけども、あしたから原子力開発機構の「もんじゅ」の廃炉が、第1段階が今年度から始まってはいるんですが、本格的な作業が始まるということで報告があったかと思います。

市長としてどのように今後の廃炉を進めてほしいと考えているのかをお伺いしたいと思います。

【市長】 6月2日からということで、第1段階の燃料体の取り出しは割と順調にいったのかな。「ふげん」について解体もやっていますから、その経験を踏まえて、これ何度も言えますけれども、安全最優先でやっていただきたいなと思っています。

【記者】 一方で「ふげん」も使用済核燃料の搬出計画に関しては、先週、ちょっと見直しが必要だということで報告があったかと思います。あの場でもおっしゃられていたけれども、市長としてそうした報告をどう受け止めたのか。そして、これから国と原子力開発機構に対してどういうふうに行動していくのを改めてお願いしたいと思います。

【市長】 あのときも申し上げましたが、計画をある意味しっかりやっていただくというのも信頼感の醸成につながると思います。安全とスケジュール、どっち優先するのかといったら多分安全でしょうけれども、それにしてもやっぱりスケジュール。今回、何回目かの変更というか遅れになってしまいますので、そういうところも含めてスケジュール管理、工程管理はしっかりやっていただきたいと思っています。あのときも、この前のもんじゅ連絡協議会のときも申し上げましたが、そうすると「もんじゅ」の工程も大丈夫ですかという話が出てきてもおかしくないので、そういうことも含めて「ふげん」の工程についてもしっかりとやっていただきたいと思っていますし、それについては国、文科省のほうからの指導というのもしっかりとやっていただくべきじゃないかなと思っています。

【記者】 最後、ちょっとまた別のことです。先月の上旬になって間もなく1か月だと思えますけれども、永大産業で火災がありました。どういうふうを受け止めたかというの

と、雇用の面などいろいろあるんじゃないかなと思います。その辺りのご認識をお伺いしたいと思います。

【市長】 まず、火災があつて、亡くなられた方もいます。議会で申し上げたんですけれども本当にご冥福をお祈りすることと、それからけが、負傷された方、やけどされた方もいらっしゃると思います。一日も早いご回復をお祈りしています。

私もメーカーに勤めていて工場とか見たことありますが、一つ大きい事故や火災トラブルがある周りには幾つかの「ヒヤリ」とする事象と「ハッ」とする事象があるという言い方をよくします。ハインリッヒの法則か何かで、1個の重大事象には幾つかのそういうのがあつて、今までどうだったのかなというのは思います。会社に対してはそういうところをしっかりとやっていただきたいですし、敦賀は幾つか工場を抱えています。消防としても水平展開を大事にし、今回の原因究明というのは単純にそこにこういうものがあつたらこういうふうには燃えましたというだけではなくて、管理体制としてどうだったのかということとは水平展開としてやっていく。火災は起こってほしくないのも、そういうこともやっていかなきゃいけないと思っています。

それから、雇用の件。これは本当に重要な問題だと思つていまして、ちゃんとフォローしていく。こういうことがあつて雇用が失われるということは本当に不幸なことなので、これについてもしっかりと注視していかなきゃいけないと思っています。

【記者】 2点お伺いします。

うち1つ目は、6月議会が間もなく始まるので、特に何について議論を深めたいかお伺いします。人口減対策室も新しくできていますし、よろしくお伺いします。

【市長】 6月議会のことと人口減少対策室の2つということによろしいですか。

【記者】 それが6月議会の議論の焦点について一つで、もう一つは終わった後。

【市長】 分かりました。まず、1個目ということですね。

6月議会、焦点というのは、議員の質問に答える形になるので、議員が何を焦点だと思ふかということによって議論の焦点の当たり具合が出てくるのかなと思っています。

その中で、自分としては6月議会でこういう質問してくださいという意味ではなくて、当面大事だなと思つていることで言いますと、先ほど言われた人口減少対策についてどうやっていくのかということが大事だと思つています。もう一つは、新幹線開業に向けて何をやっていくのかということが大事だと思つています。6月補正予算に反映できていないところもちろんありますが、当面やらなきゃいけない課題というのはそういうことか

など思っています。

あとは、私が選挙のときに言っていた公約など、議員がどういうふうなところに焦点を当ててくるかというのは、私としても楽しみにしています。

【記者】 2点目ですけれども、明日、道の駅が美浜町でオープンします。お隣です。道の駅がない県内の自治体で多分2つだけになります。公約でも造りたいなおっしゃっていたかと思いますが、参考までにもし造るとしたらどういうところを狙って造っていきたいのか、その道の駅の効果に対する期待感というのはどういうところにあるのかという考えをお伺いしたいと思います。

【市長】 道の駅は、市民の期待感もすごく強くて、よく本当に道の駅造ってくださいと言われます。じゃ、何のためにというところかというと、美浜もたくさん人来られるようになると思いますし、最近、福井県内でオープンした道の駅というのは本当にどれもこれも入り込み数というのはすごく多い。そういう意味では敦賀で道の駅やるとなったときに、道の駅も数増えてきましたので、特色を持たさなきゃいけないなと思っています。

人があそこ行きたいなと思ってもらえるような道の駅にすることと、あともう一つ、道の駅やったらいいなと思っているかということ、そこで物が売れるという、入り込み数だけじゃなくて、物を売るところ。敦賀で何を道の駅ができたとして売らなると、それだけの種類でいいのかとか、あるいは今あるものについても量が確保できるのか。いろいろ心配な部分があるというのを裏返して言うと、そういうことをやっていけば特に一次産業について売れるものを作る産業として、ビジネスとして確立できるんじゃないかなという、そっちのほう为本当の狙いだと思います。これから商品開発というか、一次産品、二次加工とかいうことも含めて、売れるものって敦賀だったら何なのかなということを考えながら、この道の駅の話を進めていきたいと思っています。

【記者】 ありがとうございます。

【記者】 今の話でちょっと乗かってですけれども、例えば一次産品とかいろんなものを商品開発する中で、先ほどの現場の話じゃないですけれども、道の駅のスケジュール感が分からないと、その開発意欲とか開発スケジュールとかにつながらないのかなと思ってしまったのですが、その辺はいかがですか。

【市長】 正直、具体的にいつまでにこれするとはちょっと言えない状況です。ここら辺が、私が具体的にいろんなことの話を進めたい中で時間が取れていないところなのかもしれない。道の駅についてはまだスケジュール感を出してないです。

今例えばそういう一次産業系の話でいうと、行政とそれから生産者、その間に例えば漁協とかJAが入ってくるとして、次に売る側となると市場だったり、あるいは魚だったら魚商さんとか、市として、行政として、今こういうことを考えていますよと。それを見てもらって生産者、そこを代表する団体の人たち、どう思いますか、一緒に何ができますか、将来的にはそうやって売るものを作りたいですねという話をするところからしましょうねというところをまず、部署と相談しているところです。

そういう話を相手に投げたのか投げてないのか、ちょっと今、今日時点で確認はしていませんが、そういうことで相談させてくださいということをお願いしましょうということでは部局とは話をしています。さっき言った道の駅をどういう施設がいいとか、何とくつつけるんだとか、同時並行に進むというそこまでは何かイメージは持っていますけれども、じゃ、いつまでにというところになると、ちょっとお話しできるところはないです。

【秘書広報課主幹】 では、以上をもちまして市長記者会見を終了させていただきます。

午後2時03分 終了